

歯周治療とメンテナンス・SPT

講師：景山 正登先生（景山歯科医院）
飯田しのぶ先生（歯科衛生士）

日時：平成26年10月11日（土）

場所：パシフィコ横浜（神奈川）



歯科衛生士（若野歯科クリニック）加藤 千鶴

<勉強会感想>

日本インプラント臨床研究会にて診療室で取り組む歯周治療とメンテナンス・SPTというテーマで景山歯科医院の景山正登先生と歯科衛生士の飯田しのぶ先生に講演をしていただきました。

歯周基本治療の流れや歯周病の分類といった基礎的な話、歯肉を二つのタイプ別にわけた場合の対応の違い、プラークコントロール、メンテナンス・SPTにおける診査について、根面う蝕のリスクコントロールと修復処置などを、景山歯科医院での実際の症例に基づきながらお話していただき、とても勉強になりました。そして日ごろ行っている診療を改めて考えるきっかけになりました。

特に興味深かったのはSPT時における診査についてです。プロービングを行う際には、2mm以上変



化している部位があるかどうかの確認が重要であること、BOPだけではなくGB（歯肉辺縁からの出血）の有無によって、患者さんがご自宅でのブラッシング習慣をきちんと身につけているか、適切に判断ができること、これらは今後のメンテナンス・SPTに取り入れていきたいと思いました。GBが認めら



れるということは、ブラッシングのテクニックは習得していても、ブラッシング習慣が定着していないということなので、その事を患者さんに説明し理解していただき、TBIでの目標設定を決める際に生かしたいと思いました。

コンサルテーションについての話でも多くの示唆がありました。私自身としては、患者さんに押し付けるのではなく患者さんの立場を考え適した方法を提供し、患者さんが出来そうなことを提案するなど、普段から気をつけているつもりでいました。しかし、例えばTBIのときなど、ブラークコントロールを下げることでばかりに意識が傾いてしまい、今までの習慣を大きく変えるようなことを提案してしまったこともあったので、患者さんが無理なく受け入れられる範囲のことを提案し、進んで選択していただけるようにすることが必要であると思いました。

歯科衛生士の飯田しのぶ先生の話では、メンテナンス・SPTの受け止め方は患者さんによって異なるということを改めて感じました。メンテナンス・

SPTに関心があり、積極的である方、そうでない方がいらっしゃいます。定期的に通っていても、きちんとブラッシングが出来ているという自信があると、来院のモチベーションが低下してしまう場合があります。それとは反対に来院することでブラッシングが不十分であると確認し、来院することにモチベーションが維持される場合もあるので、それぞれに適した提案をしていけたらと思いました。また、歯周病の治療を希望される方は、治すことが最終目的と考えている場合が多いので、その状態を長期間維持することが大切であることを歯科衛生士が正しく説明し、理解してもらい協力してもらうよう促すことが必要です。そのためには患者さんがメンテナンス・SPTに求めているものを読み取り、患者さんが必要性を感じるような内容を心がけたいと思いました。

今回の講演を通して学んだことを、これからの診療に取り入れていき、患者さんが求めるメンテナンス・SPTができるよう、取り組んでいきたいと思えます。

